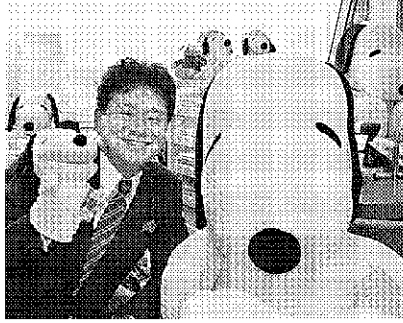


■ スヌーピー収集 中塚一宏氏



世界で最も有名な白いビーグル犬「スヌーピー」が誕生したのは一九五〇年。米国の新聞で漫画「ピーナッツ」の連載が始まり、世界中に一大ブームを巻き起こした。民主党の中塚一宏衆院議員（40）もそんなスヌー



父子の絆 ビーグル犬で再び

ビーの魅力に取りつかれた一人。子どものころから好きだったが、議員になってから関連グッズを本格的に収集し始めた▼様々な大きさのぬいぐるみ、二足歩行するおもちゃ、ブロック、チェス、バカラのガラス細工……。議員会館の事務所には百点を超える「スヌーピーもの」が所狭しと並んでいる。なかでも自慢は手巻きの腕時計で、アポロ13号にちなんだ限定モデルだ▼中塚氏にとって「ビーグル犬は十二歳のとき亡くなった父親の形見」。父がかわいがり、中塚少年が世話を引き継いだ。その犬は後を追うように間もなく命を落とした。それから十八年が過ぎた今年の誕生日、五歳の長男がスヌーピーのぬいぐるみを中塚氏にプレゼントした。ビーグル犬が父と子の絆（きずな）を再びつないだ瞬間だった。(文)